

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：34517

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K10582

研究課題名（和文）急性期病院に勤務する看護師の自律的学習意欲の構造化と尺度開発

研究課題名（英文）Structuring and Development of A Self-education scale for nurses working in acute care hospitals

研究代表者

野寄 亜矢子（NOYORI, Ayako）

武庫川女子大学・看護学部・助教

研究者番号：00824830

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究により看護師の自己教育性尺度として《自ら学ぶ力》《省察する力》《看護への興味と仕事の充実感》からなる3因子27項目の看護師の自己教育性尺度が開発された。開発された看護師の自己教育性尺度は、(1)概念分析で示された看護師の自己教育性5属性が全て含まれていること、(2)成人学習者である看護師の主体的な学習プロセスを踏まえていること、(3)先行研究で実証されている看護師の経験学習の重要性が反映されていることより、看護師の自己教育性を適切に測定できていると言える。また、内的整合性が高く（ $r = .945$ ）、確認的因子分析の結果は高いパス係数と一定の適合度を示していた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

社会の変化に応じて求められる看護実践は日進月歩している中、看護師が主体的、継続的に学習を行うためには主体的な学ぶ能力だけではなく、看護師の情意的な資質も捉えることができる自己教育性が重要である。これまでに看護師の主体的、継続的な学びに関する研究は数多く報告されてきた。しかしながら、看護師の自己教育性を明確にとらえた報告は見当たらず、本研究により看護師の自己教育性の構成概念を明らかにすることができた。看護師の自己教育性の構成概念を明らかにすることができたことは看護師が成人学習者として経験学習を通して学んでいることが示され、看護師の経験が看護師として成長する上での学びとして重要であると言える。

研究成果の概要（英文）：This study developed a three-factor, 27-item self-education scale for nurses consisting of "the ability to learn independently", "the ability to reflect on one's", "the interest in nursing and a sense of fulfillment in work". The developed self-education scale for nurses (1) includes all five attributes of nurses' self-education as indicated in the conceptual analysis, (2) is based on the independent learning process of nurses as adult learners, and (3) reflects the importance of nurses' experiential learning as demonstrated in previous studies. The study adequately measures the self-education of nurses. In addition, internal consistency was high ( $r = .945$ ), and the results of the confirmatory factor analysis showed a high path coefficient and a certain degree of fit.

研究分野：看護教育

キーワード：自己教育性 看護師 尺度開発 関連要因 自律的学習意欲

## 1. 研究開始当初の背景

近年、在院日数の短縮や患者の高齢化により看護業務は複雑多様化している。そのような背景の中、急性期病院では看護の質向上のために高い看護実践能力が必要であり、我が国の免許更新制度を有さない現状を踏まえれば看護師の自律的学習が不可欠である。しかしながら、近年業務の過密化や単調化による刺激の低下、他者からの評価の機会の減少により看護師の自律的な学習意欲は低下しているのではないかという指摘が多数ある(関, 2015; 本谷・成川, 2010)。これらの指摘は経験論や推察の域での議論であり、現時点では自律的な学習意欲の構造は明らかになっておらず、実際に看護師の自律的な学習意欲が低下しているか否かは実証されていない。

看護基礎教育や継続看護教育では自律的な学習意欲に近接する概念として「自己教育力」「自己教育性」があり、それらの先行研究では梶田(1985)の自己教育性調査票や西村ら(1995)の看護師の自己教育力測定尺度がしばしば活用されている。しかしながら先行研究で提案されている尺度は、(1)大学生を対象として開発された尺度であること、(2)尺度の統計的信頼性・妥当性の検討が不足していることから、看護師にそのまま適応することは難しい。そこで、看護師の自律的な学習意欲を検討するにあたり、近接概念である看護師の自己教育性に着目した。

「看護師の自己教育性」の構成概念に基づき「看護師の自己教育性」の構造化と尺度開発を行い、この尺度開発を通して「看護師の自己教育性」の構造モデルを構築することで、(1)教育環境や職場風土などさまざまな観点から急性期病院の看護師の自己教育性に関連する要因を研究するための指標、(2)急性期病院の看護師の自己教育性を縦断的に測り知ることで、看護師人生の中でどのような意欲の変化をもたらしているのか、またその変化の要因を知るための指標、(3)急性期病院の看護師の学びの意欲に関連する要因や変化を知ることによって教育的支援の時期や体制づくりの指標に活用することができると考える。これらの後続研究を経て、看護専門職として看護師が自ら新しい知識を獲得、保持、検索し、意図的・自律的・継続的な学習ができる力身につけ、看護の質向上を図ることができる。

## 2. 研究の目的

本研究は、急性期病院に勤務する看護師の自己教育性の構成概念を明確化し、急性期病院に勤務する看護師の自己教育性の測定尺度を開発することを目的とする。

## 3. 研究の方法

### (1) 看護師の自己教育性の概念分析に基づく尺度原案の作成

尺度開発に先立って、概念分析の結果から本研究における看護師の自己教育性の操作的定義を明らかにするために Walker & Avant (2005/2008) の概念分析の手法を用いた。日本の看護基礎教育課程において 1990 年の教育課程改正から看護師の自己教育の重要性が示されるようになったため(加藤ら, 2004)、検索年は 1990 年から 2019 年とした。和文献は医学中央雑誌 Web 版と CiNii を使用し“看護師”“自己教育”“自己教育性”“自己教育力”、海外文献は PubMed, CINAHL を使用し“nurse”“self-education”に加えて、近接概念である“self-directed learning”“self-directed learning readiness”をキーワードに検索した。さらに、看護師の自己教育性に関連する文献に限定し、文献を抽出した。対象文献は 43 文献が得られ、そのうち 13 件は海外文献、30 件は和文献であった。概念分析の結果、構成された概念の属性の 5 要素 看護への興味 自信・充実感・安定性 成長・発展の志向 省察する力 学習の技能 に基づき、先行研究を参考に質問項目を作成し 85 項目からなる看護師の自己教育性尺度原案を作成した。

### (2) 看護教育専門家による内容妥当性、表面妥当性の検討

作成した尺度項目の内容妥当性を検討するために臨床経験 5 年以上かつ修士以上の学位をもつ看護師 9 名を対象に Content validity index(以下; CVI)を用いた検討を行った。看護師の自己教育性の 5 つの属性と尺度原案の項目の関連について 4 件法で調査し、Item-Content validity index(以下; I-CVI)と Scale-Content validity index(以下; S-CVI)の平均値を算出した。加えて、項目の表現方法や例示方法、過不足について自由記述を求めた。I-CVI は .78 以上、S-CVI の平均は .90 以上の項目を採択基準とした(Polit & Beck, 2006)。

### (3) 1 次調査

全国的一般病床数 300 床以上の 933 施設を地域別に層化し、母集団の割合に準じて目標標本規模を満たすよう 82 施設を抽出した。そのうち、研究参加の同意が得られた 22 施設の看護師 1,080 名を対象に修正版尺度原案について無記名自記式質問紙調査を実施した。分析は、項目の記述統計量を算出し、探索的因子分析を行い、同データを用いて確証的因子分析を行った。また、Cronbach's 係数を算出し尺度の内的整合性を確認した。さらに看護実践の卓越性自己評価尺度得点、専門看護師や認定看護師の資格の有無、進学希望の有無、職業継続意思の有無の 4 指標を外的基準として基準関連妥当性を検証した。

さらに、関西圏内の一般病床 420 床を有する急性期病院 1 施設の看護師 100 名を対象に 3 週間の間隔を空けて看護師の自己教育性尺度について 2 回の調査を実施し、テスト・再テスト法による級内相関係数を算出した。

#### (4) 2 次調査

全国の 300 床以上を有する 1 次全国調査とは異なる急性期病院 78 施設に勤務する 5,636 名の看護師を対象に開発した尺度と看護師の自己教育性の概念分析で示された先行要件から抽出した関連要因について無記名自記式質問紙調査を行った。尺度の基本統計量を算出し得点分布を可視化した。また、尺度総得点と下位尺度の得点を目的変数、関連要因を説明変数として単変量解析、決定木分析、重回帰分析を行った。

なお、統計解析における有意水準は 5% とし、統計解析には IBM SPSS ver.28、IBM SPSS Amos ver.26 を用いた。

### 4. 研究成果

#### (1) 看護教育専門家による内容妥当性、表面妥当性の検討

看護師の自己教育性尺度原案 85 項目のうち I-CVI が .78 未満の項目は 23 項目であった。I-CVI が .78 未満の項目は削除対象であるが (Polit & Beck, 2006), I-CVI の結果のみに基づき項目の削除を行うと最終的に下位尺度の項目不足が生じ適正な尺度構成にならないことが指摘されている (高木, 2011)。このことから、23 項目のうち 17 項目を削除し、6 項目は項目の表現を修正して採択した。削除した 17 項目の I-CVI は .38 から .75 (平均 .70) であり、修正した 6 項目の I-CVI は .63 から .75 (平均 .73) であった。採択した 68 項目の S-CVI の平均は .92 であった。さらに、採択した 68 項目について、臨床経験 5 年以上の看護師 4 名を対象に、項目の表現方法、回答困難な表現内容について確認を行い、対象者の自由記述の内容から類似性があると判断された 2 項目を削除した。そして、66 項目について再度、臨床経験 5 年以上かつ修士以上の学位をもつ看護師 6 名を対象に CVI を用いた検討を行った。その結果、I-CVI が .78 未満である 4 項目を削除した 62 項目を採択し、尺度原案とした。尺度原案の I-CVI は .83 以上であり、S-CVI の平均値は .94 であった。

#### (2) 1 次調査

1 次調査は 416 名から回答があり (回収率 38.5%)、有効回答は 381 名 (有効回答率 35.3%) であった。看護師の自己教育性 62 項目について、天井効果・フロア効果を示す項目はなかった。62 項目の項目間相関を確認した結果、 $r$  が .70 以上を示す相関のペアが 9 組あり、その項目内容を研究者で検討した。2 組は同じ意味内容を含んでいたためどちらか一方を削除し、その他は意味する内容が明らかに異なることから、そのまま採用した。I-T 相関分析では、 $r$  が .80 以上を示す項目は認めなかったが、 $r$  が .30 未満を示す 2 項目は削除した。G-P 分析では合計得点から高値群 ( $n=86, 33.2\%$ )、低値群 ( $n=88, 34.0\%$ ) を抽出した結果、すべての項目において有意差を認めた ( $p < .001$ )。これらの項目分析の結果、4 項目を削除した。58 項目について最尤法、プロマックス回転による因子分析を実施した結果、31 項目を削除し、看護師の自己教育性尺度として《自ら学ぶ力》、《省察する力》、《看護への興味と仕事の充実感》の 3 因子 27 項目からなる尺度が作成された。因子負荷量は .516 から .895 であり、抽出後の負荷量平方和の累積は 54.0% であった。基準関連妥当性は看護実践の卓越性自己評価が高い群で看護師の自己教育性は有意に高く ( $p < .001$ )、専門看護師・認定看護師の資格を保有する群でも有意に高い結果であった (総得点・第 1 因子・第 2 因子  $p < .001$ 、第 3 因子  $p = .045$ )。探索的因子分析で得られた看護師の自己教育性尺度の 27 項目で仮説モデルの適合度を確認した結果、適合度は、GFI = .834、AGFI = .802、CFI = .912、RMSEA = .068、 $\chi^2$  値 = 677 (df = 316,  $p < .001$ ) であった。Cronbach's の係数は尺度全体で .945、下位尺度の第 1 因子で .928、第 2 因子で .897、第 3 因子で .899 であった。級内相関係数は .714 から .865 であった ( $n=36, p < .001$ )。

以上のことから、《自ら学ぶ力》《省察する力》《看護への興味と仕事の充実感》の 3 因子 27 項目からなる尺度を開発した。開発した尺度は、(1) 概念分析で示された看護師の自己教育性の 5 属性が全て含まれていること、(2) 成人学習者である看護師の主体的な学習プロセスを踏まえていること、(3) 先行研究で実証されている看護師の経験学習の重要性が反映されていることより、看護師の自己教育性を適切に測定できていると考える。

#### (3) 2 次調査

2 次調査では 1,510 名から回答があり (回収率 26.7%)、有効回答は 1,446 名 (有効回答率 25.7%) であった。看護師の自己教育性尺度の総得点 (平均  $\pm$  標準偏差) は 105.1  $\pm$  17.6 点であり、下位尺度得点別では《自ら学ぶ力》43.7  $\pm$  9.7、《省察する力》42.9  $\pm$  5.7、《看護への興味と仕事の充実感》18.5  $\pm$  4.7 であった。個人属性別で最も看護師の自己教育性の総得点が高い値は専門看護師であり ( $n=34, 129.5 \pm 18.5$  点)、最も低い値は最終学歴の 2 年課程看護専門学校であった ( $n=159, 97.7 \pm 18.8$  点)。下位尺度得点別においても専門看護師が最も高い値であった (第 1 因子 = 57.1  $\pm$  8.5 点、第 2 因子 = 48.9  $\pm$  6.8 点、第 3 因子 = 23.5  $\pm$  4.2 点)。尺度開発とは、別の大規模データでも妥当性が確認できたことから妥当性の高い尺度であると言える。

看護師の自己教育性尺度の総得点および下位尺度の得点を目的変数として重回帰分析(強制投入)を行った。投入したすべての説明変数では多重共線性が認められなかった(VIF< 2)。重回帰分析の結果、看護師の自己教育性尺度の総得点には[職場で役割を担うことに負担を感じる]が有意に負の関係であり ( $\beta = -.242, p < .001$ )、[看護師としての自分を応援してくれる家族がいる]( $\beta = .128, p < .001$ )、[自分を認めてくれる上司、先輩、同僚がいる]( $\beta = .126, p < .001$ )、[職場には、互いに刺激しあえる先輩、同僚がいる]( $\beta = .132, p < .001$ )、[職場内での役割の有無]( $\beta = .129, p < .001$ )、[チームで連携して仕事に取り組んでいる]( $\beta = .099, p = .001$ )、[院内で行われている研修は学びやすい]( $\beta = .110, p < .001$ ) が有意に正の関係であった。なお、総得点における自由度調整済決定係数は .343( $p < .001$ )、下位尺度の得点における自由度調整済決定係数は .241 - .355 ( $p < .001$ )であった。関連要因の検討から他者からの内省支援・精神支援、他者との社会的相互作用による学ぶ機会が看護師の自己教育性を高める要因であること、承認や役割付与は看護師の自己教育性を高める要因である一方で、低下させる要因でもあることが示された。看護師が生涯にわたり学び、看護実践能力を維持、向上していくためには、対話を重視しながら個々の看護師の能力や状況に応じた支援が求められる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Noyori Ayako, Shimizu Sachiko	4. 巻 42
2. 論文標題 Development of A Self-Education Scale for Nurses	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Japan Academy of Nursing Science	6. 最初と最後の頁 850～860
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5630/jans.42.850	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Noyori Ayako, Shimizu Sachiko	4. 巻 43
2. 論文標題 Identifying Factors Related to Self-Education of Nurses Working in Large Hospitals	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Japan Academy of Nursing Science	6. 最初と最後の頁 776～787
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5630/jans.43.776	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 野寄亜矢子, 清水佐知子
2. 発表標題 看護師の自己教育性測定尺度の開発
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野寄亜矢子, 清水佐知子
2. 発表標題 看護師の自己教育性に関連する要因の検討
3. 学会等名 第43回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	清水 佐知子  (SHIMIZU Sachiko)  (50432498)	武庫川女子大学・看護学部・教授    (34517)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------